

文化の仲間

京浜協同劇団と共に歩む文化の仲間

会報 No.49

二〇〇九年五月一〇日発行

川崎市幸区古市場
2-109
京浜協同劇団内
TEL 044-511-4951
郵便振替
00250-3-18369

——京浜協同劇団の50歳を祝って 賑やかに「文化祭」を開きました

京浜協同劇団 水野 哲夫

京浜協同劇団が誕生して今年で五〇歳になります。「文化祭」はこの五〇歳を祝おうと、日ごろ劇団の稽古場を利用していただいている地域の皆さん方が出演して大いに賑やかそうと企画したものです。去る三月七・八日に、二日・三回の公演には子ど



「文化祭」の舞台①

もたちの「モダンバレエ」を皮切りに、「フラメンコ」「ハンドベル」「国鉄・横浜うたう会」や「六年生バンド」「トランペット演奏」「うたごえサークル・紫陽花」「落語」などがつぎつぎと登場し、京浜協同劇団からは「権兵衛太鼓」「落語芝居・文七元結」「狂言芝居・お告げの妻」「南京玉すだれ」で参加して、大いに盛り上げ、全体で二三団体・二個人に出演していただき、延べ三〇〇人余のお客さんに喜んでいただきました。

二日間にわたる「文化祭」は、劇団の五〇年にわたる歩みの中で、結んできた多くの仲間との絆を、強く印象づけつつ幕を閉じたのでした。



「文化祭」の舞台③



「文化祭」の舞台②

多彩な出し物で 十分楽しむことができた

超電磁劇団ラニヨミリ とのぎひろこ

九月公演に向け本格的稽古がスタートした超電磁劇団ラニヨミリは、昨年末から週に二、三回ほど、京浜の稽古場で汗を流している。この文化祭の存在は、そんな中で知ることができた。

京浜協同劇団は、五〇年という長い年月、地域の方たちに根ざして創造活動をされてきた。だからこそできる、文化的種類も豊富で、大勢の方たちとの



「文化祭」の舞台④

つながりを感じさせる、和気藹々としたお祭り、そんな風に期待していた。これに先立ち、私は、「池上幸豊とその妻」で、京浜の方たちのいろいろな意味での人間としての底力を知り、感銘を受けていた。暮れには大掃除にも参加し、その歴史の深さ、確かさを具体的に目の当たりにしていた。私がかけたのは三月七日土曜の夜。もちろん、いろいろな方たちの多彩な出し物で、十分楽しむことができた。しかし、それだけではなかったのである。

びあの・ふりーすくーる川崎教室。安達先生の「学校に行けなくなつた生徒が、ふりーすくーるに通うでしょう？」そのイメージでつけました。普通の厳しいピアノレッスン教室とは違うんです。この学校は、皆がやりたいことを自由にやつてのびのび表現するのです。」…何と暖かいことか。そして、創造者の心を大切にしていることか。自作の歌をまつすぐに歌う根倉さん、連弾で安達先生と心を合わせた白井さん、完全に暗譜して必死にピアノに向かつて独奏した若菜さん、弾き語りで心からあふれる思いを表現した鬼丸さん、…四人の方たちは、どの方も、まぶしいほど真摯で、精一杯音楽を表現することを楽しみ、その中で生きていた。その姿は、観客の心を揺さぶるものだった。

形を整えようとしたら、発表すること自体をやめてしまったかもしれない。でも、それではいけない。生きている限り、いつまでも表現者たらんという気概。私はそこに強烈に引かれた。私自身、「この閉



「文化祭」の舞台⑤

じた肉体のいびつさを何とかしなくては！」という切羽つまつた思いに駆られて、バレエとタップを習い始めて三年になる。小学校一、二年生の体の柔らかい人たちが私の先輩。彼女たちの母親より年上の私を、最初は「どうしたんだろう？このおばさん。」と怪訝そうに眺めていたが、今では仲間として受け入れてくれ、時にはおやつのクッキーを配ってくれたりする。

土曜はそのレッスン日だったのだが、この日に限っては途中で抜けてタクシー飛ばして京浜へ。観に来て本当によかった。大事なことに気づかされた。私もいつか、小学校一、二年生の友人たちとともに、バレエの舞台に立ちたい、と強く思った。



「文化祭」の舞台⑥

元気と喜びをもらいました

伊藤 むつ子

肩ひじはらない気軽さで寄せてもらえる場、スペース京浜はそんな雰囲気のある文化の発信地ですね。五〇年の貫禄というか実力は劇団のたゆまぬ努力と研鑽によって築かれ、磨かれていながら、座ブトンのあるアットホームな会場づくりになごみます。客席と舞台が近く、一体となったごとく吸い寄せ



「文化祭」の舞台⑧

(文化の仲間・会員・千葉市在住)

られます。今回の文化祭の多様な出し物、十分堪能し、心弾むものばかりでした。体より発信する芸術性あふれる表現方法は様々でありながらごなたも生き生きとして、元気と喜びをもらいました。これからも文化の拠点として感動を広げてください。ありがとうございました。



「文化祭」の舞台⑦

1959

この日、この地で、この人々と

2009

創立 50 周年／一連事業

■春の文化祭 3月7日(土)・8日(日) スペース京浜にて実施済

■CD製作・発売 2枚組 ¥2,000 予約受付中

(収録曲「金冠のイエス」「麦の穂のように」「さつきまつりのうた」ほか)

■レセプション開催 10月3日(土) エポック中原 7階大会議室

■記念誌の発行 B5判 約150頁

■記念公演 「貧の意地」 太宰治 作／蒔村由美子 脚本 (11月・12月スペース京浜にて)

京浜の演劇・戦後編 その序章⑩ (最終回)

「地域演劇」という

新しいジャンルの確立へ

須田 輪太郎

一九五〇年の一月。すでに「ひとみ座」へ入団していたボクは、クロサンのお供をして山北からバスで入った「落合」という所の雑貨屋兼民宿の石田さん方へ一週間の予定で投宿することになった。

クロサンは本業の「出前写真屋」の訪問撮影で稼ぐ傍ら、助手のボクと「二十一の手紙」の構想を練るくというプランなのだが、農家を一軒一軒回って撮った写真を、山北のD・P・Eに出して三日以内にお届けして料金を頂くという仕事は、それだけでお手上げになってしまふほどの大変なものだった。「落合く山北」のバスは一日六往復。今のようにマイカーでなんてことは、夢か幻の時代だった。

プロレタリア文学の葉山嘉樹作品の「セメント樽の中の手紙」を下敷きに、争議中の近江絹糸で働く紡績女工の娘と、山林地主の横暴に屈しない農村青年の手紙のやりとりを朗読劇風に仕立て上げる。そういうプロットを話したら、クロサンが乗って「二十一回メデー」を記念して「二十一の手紙」と題名を考えてくれたのである。

出前写真の仕事は、際限なく注文がくるほど繁盛し、ボクも大恩ある静江夫人に少しは恩返しできると、一生懸命頑張ったが、出来上がった写真を配達すると、「焼増し」注文があつたりする。それは、川崎に帰ってからお送りすることにして、結局撮影は二日、現像・焼付・配達で三日、五日で引き上げざるを得なかった。その間「二十一の手紙」は少しも進展しないままで終わってしまった。二十数年後、クロサンが、戸塚へ移住してから地域の人たちで上演された「千代の手紙」が、この時の構想と関係あるかどうか？ 観ていない僕には解らない。

クロサンとボクを「演劇ユートピア」と呼ぶ人もいた。確かに、占領下日本は戦争体制へと状況変化していた。「アカハタ」発刊停止・レッドパージが始まり・共産党は分裂状態。警察予備隊という軍隊が作られ、遂に朝鮮戦争勃発(六・二五)。反戦ピラを配つただけで「占領政策違反」で拘留される。

ひとみ座の人形劇も開店休業状態だ。子ども五人集めても「集会届け」を出して許可が必要。脚本もGHQのトンブソン大佐の検閲済みでなければ使えない。ひとみ座は鎌倉・藤沢のお寺や小さな公会堂などを借りて「マッカーサー司令部推薦の人形劇だよ」と銅鑼を鳴らして子ども達を集める、街頭紙芝居と同じ方法で糊口を凌いでいた。

そんな中で「芝居のことだけを考え、芝居以外の

ことはどうでもいい」と、云わずもがなに決めたボク達は、まさしくユートピアだったと思う。朝鮮戦争開始直前の五月。野毛山の貿易博跡の劇場で葡萄座公演は、金子洋文作・クロサン演出「鬼の面」と寺島アキ子作・萩坂演出の「モルモット」で、後者では、なぜかボクが役者をやっている。

いわゆる「五十年問題」で、新劇団の分裂と離合集散が相次ぐ中で、ボクは人形劇に専念する道を選び、クロサンとハギさんは川崎で「建設座再建」を目論み、十一月に発足させる。島崎藤村作・神谷量平脚本・萩坂桃彦演出「破戒」を、山本幸栄他の葡萄座員の応援出演を得て、年明けに公演した。

建設座は盛大な旗揚げ公演をやり、八十人以上の劇団員が参集し、鶴見地区労を稽古場にして「煤煙の下から」「日鋼室蘭」などの黒沢作品を公演したが、労働者の現実を描く芝居は特需景気で肥った企業中心社会に馴染まず、建設座は衰弱期に入った。

非職業的な劇団を「アマチュア演劇」とか、「市民劇団」とか、故加藤衛氏が「業余演劇」と称したのも含めて、そのアイデンティティが不透明だが、故黒沢参吉氏の地域演劇論を集約した「この日・この地で・この人々と！」は、京浜協同劇団五十年史と共に、ますます輝きを増していくと思う。

(終わり)

* * *

親と子どもで楽しむ

かわさき演劇まつり第三四回公演

ミヒヤエル・エンデ作

「モモ」の上演の成功に

ご協力ください

京浜協同劇団 稲垣 美恵子

川崎市から「川崎演劇協会」への委託事業として始められた「親と子で楽しむ演劇まつり」も今年で三四回目を迎えます。一昨年は「はだかの王様」で一五〇〇名余りの方々に見ていただいております。今年は今明けから「派遣切り」や「雇用の契約解除」など日本ならず世界的な不況の波が襲い、私たちの人間らしい生活が奪われ、不穏な日々が続いてます。まるで灰色に覆われた世界です。

そこで登場するのは「だーれ」？「モモ！」です。この作品は一九七三年にドイツの作家ミヒヤエル・エンデの児童文学で、日本でも多くの読者に親しまれています。

ある街に現れた「時間貯蓄銀行」と称する灰色の者たちによって人々は時間を奪われ、心に余裕がなくなってしまう。そんな中、不思議な力を持つ少女「モモ」が友人の話に耳を傾け、冒険し、灰色たち

と戦い、奪われた時間と人間らしさを取り戻していくという物語です。「モモ」のお友達や村人、灰色の者たちなど総出演者数五〇名の大作です。

現在、川崎演劇協会に加盟している劇団は川崎演劇塾と京浜協同劇団の二つの集団ですが、それぞれに事情を抱えてたいへんな状況ということで、必死の思いで出演者の大募集を行いました。幸い二十数名の方々の申し出があり、四月の稽古始めに何とかこぎつけることができました。劇団員以外の出演者は、演劇講座の卒業生や市民劇「幸豊とその妻」に出演された方々、また今回新たに参加される方々の中にはプロの役者さんなど多彩な方々が多く、芝居の仕上がりが楽しみです。

稽古は全員が参加しやすい土曜日、日曜日に集中し、夜は大人中心にするなど、工夫して行っています。脚本は劇団名芸の栗木英章氏、音楽はご子息の栗木健氏、振付は西田堯氏、演出は内田勉が務めます。多摩市民館一杯のお客様に喜んでいただけますよう一生懸命稽古に励み、素敵なお客さん「モモ」にしたいと思います。皆様のご協力、よろしくお願いいたします。

公演日時

七月二十五日(土) 午後二時、午後六時半

二六日(日) 午後二時

会場 川崎市多摩市民館大ホール

第34回 かわさき演劇まつり

モモ

少女と時間どろぼうたち

原作＝ミヒヤエル・エンデ

訳＝大島かおり(岩波書店刊)

脚本＝栗木英章

演出＝内田勉

企画・制作＝川崎演劇協会

出演＝公募の市民／京浜協同劇団／劇団川崎演劇塾

2009年7月25日(土) 昼2時／夜6時30分

7月26日(日) 昼2時

多摩市民館ホール

大人 1,200円 高校生以下 800円

開場は各30分前・自由席

主催＝かわさき演劇まつり実行委員会 (財団法人)川崎文化財団

共催＝川崎市 川崎市教育委員会

時間どろぼうにぬすまれた時間をとりかえてくれた女の子モモのふしぎなものがたり

世界中の人に愛読されている名作

—ご観劇の申込方法—

ご希望の日時、人数(大人、子ども別に)、〒、住所、氏名、電話、ファックス番号を記入の上、次のいずれかの方法でお申し込みください。

・ファックス 044-533-6694 ・電話 044-511-4951

・往復はがき 〒212-0052 幸区古市場 2-109 かわさき演劇まつり実行委員会

・Eメール keihinkyoudougekidan@nifty.com

◎文化の仲間通信◎

◆友野龍士和太鼓わくわくコンサート

横浜が生んだ和太鼓奏者 二十歳になりました

日程 5月30日(土) 午後二時半開演

会場 神奈川公会堂

入場料 全席指定 一般二五〇〇円

小・中・高・障害者一〇〇〇円

ライブセッション 藤本ゲン(ピアノ)／穴澤雄介

(バイオリン)／中条きのこ(太鼓センターユニット)

ト)／The J.B.F.(和太鼓篠笛ユニット)

主催 実行委員会 協力 株式会社太鼓センター

問合せ 友野 〇九〇・九三八〇・六九六四

玉田 〇七〇・五五〇四・三三七一

◆川崎市民劇場 第290回例会

俳優座劇場プロデュース公演 東京原子核クラブ

作 マキノノゾミ／演出 宮田慶子／出演 田中壮

太郎・西山水木・若杉宏二・瓶鮫一ほか

日程 6月2日～6月9日

会場 宮前・幸・多摩・エポック中原の各市民館

青春を謳歌する若者の姿と戦争に突き進んだ国の歪みを炙り出す注目の話題作。

題名は固い、怖い話かと思われてしまいがちですが、中身は日本人二人目のノーベル賞受賞者朝永振

一郎をモデルとする若き物理学者を中心に、昭和初期の東京の下宿屋に集う若者たちの姿を軽快に描く

青春群像の物語です。

問合せ 川崎事務所

〇四四・二四四・七四八一

溝の口事務所 〇四四・八五五・五九一六

◆羽田澄子監督作品 嗚呼 満蒙開拓団

日程 6月13日(土) よりロードショー

会場 岩波ホール(〇三・三二六二・五二五二)

特別鑑賞券 一五〇〇円(当日一八〇〇円)

製作・配給 株式会社自由工房

あなたは、満蒙開拓団の悲劇を知っていますか。なぜ、この悲劇は起きたのか。

◆第23回 がんばれッ！ 日本国憲法

わたしたちの憲法劇

日程 6月26日(金) 午後六時半

27日(土) 午後一時半・五時半 開演

会場 神奈川県立青少年センターホール

入場料 一般二〇〇〇円 学割一五〇〇円

脚本 上演実行委員会／脚本協力 篠原久美子／構成・演出 濱田重行／音楽 くらたゆうじ

主催 「がんばれッ！ 日本国憲法」 上演実行委員会

問合せ 実行委員会 〇四五・六五一・二六六七

一九八七年から平和と憲法の大切さを訴えている

市民ミュージカルです。小学生から70代まで幅広い年齢の人たちが憲法や平和について学び、考えながら参加しています。

◆第9回 ゆめりあコンサート

日程 6月28日(土) 午前11時・午後2時半 開演

会場 ゆめりあホール(西武池袋線大泉学園下車)

前売券 二五〇〇円(当日三〇〇〇円)

プログラム 八丈島太鼓囃子唄、秩父音頭、何度でも、1本の樹、ホッロアアリアン、窓をあけて、ほ

たる、つれもていこれ、いのり、夜明け前など。

問合せ たつの素子 〇三・三九九七・三六七三

今回は合唱隊「つれ」を中心にプログラムを組んでみました。それぞれの「だから・いま・うたう」

を聞いていただきたいと思います。

* * *

* * *

* * *

* * *

◎文化の仲間のホームページ(H.P)ができました

京浜協同劇団のH.P (<http://www.kinet.or.jp/keihin/>)の一角に、文化の仲間のH.Pを作っていました。

劇団のトップページにある「文化の仲間のH.P」の項目をクリックしていただくと、文化の仲間のトップページにたどり着きます。

結成宣言、会則、文化の仲間の歌、入会申込書、

これまで発行した会報などが見られます。会報は元のデータをPDFファイルにしていますので、写真や絵手紙はカラーです。一度のぞいてみてください。

■文化の仲間ギャラリー■

竹間テル子 ⑤

